

## TOPIC | 1 | 国交省が脱炭素化に注力、LCCMや改修で補助事業創設も

国土交通省が2022年度の予算概算要求を公表した。住宅の省エネ化の推進を大きな柱の一つとしているが、この一環として「住宅・建築物カーボンニュートラル総合推進事業」を創設し、「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」でのとりまとめに示された施策に対する支援を行う。

その支援の一つが、省エネ基準よりも性能が高い住宅への補助だ。LCCM住宅について、新たに補助制度を創設し、普及拡大に向け支援を行う。また、中小工務店等によるZEHや長期優良住宅の拡大を図るため、既存の地域型住宅グリーン化事業の支援を強化する。

一方、新築だけでなく、既存住宅の省エネ化への補助も行なう。既存の長期優良住宅化リフォーム推進事業での支援を強化するとともに、新たな省エネリフォームの補

助制度も創設する。

また、同事業では、木造住宅・建築物が炭素貯蔵効果が高いことから、優良な都市木造建築物等の整備に対する支援も行う。新たにマンションなどの中大規模建築物を木造で建てる際に掛かる掛かりまし費用を支援する補助制度を創設する。

この他にも、住宅脱炭素化に向けた様々な施策を講じる。省エネ性能に優れた住宅の取得に対する(独行)住宅金融支援機構のフラット35の金利引下げや省エネ改修への低利融資を行う。

サービス付き高齢者向け住宅について、新築の場合は省エネ基準適合を支援の要件とするとともに、ZEHレベルの省エネ水準の整備等に対する支援を強化する。既存ストックの省エネ改修等に対する支援も強化する。

## TOPIC | 2 | MRグラス活用したソリューション提案が活発化

住宅・建築業界で、MRグラスを活用したソリューション提案が活発化してきている。MRとは、Mixed Reality(複合現実)の略。MRグラス越しに、現実空間の中に3Dのデジタル情報を浮かび上がらせることができるもので、新しい体験の提案や生産性向上に結び付けている。

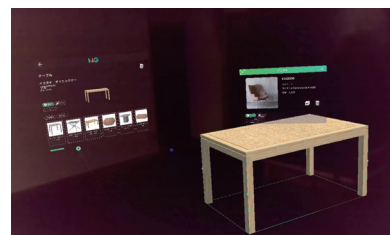
ニトリは、大阪の「ニトリ 企業向けショールーム(NITORI BUSINESS & REFORM)」で、空間コンピューティングデバイス「Magic Leap 1」を使ったショッピング体験ができる実証実験を実施。「Magic Leap 1」を装着すると、システムキッチンが実際の空間に現れ、その場に存在しないシステムキッチンがあたかもショールームに存在しているかのような体験を可能にした。

一方、ガーデン・エクステリアメーカーのタカショーはMRグラスを活用して、エクステリア製品を現実空間に配置し、施工後の完成イメージをシミュレーションできる

XR体験アプリ「メタバガーデン for MR グラス」を開発し、2021年9月から提供を開始する。現実空間の中にMRグラス越しに、同社商品の3Dデータ

を浮かび上がらせることができる。展示場やショールームを持っていなくても、その場で商品・空間提案ができる。

長谷工コーポレーションは、マンションの外壁タイル打診検査にMRグラスを活用。建物の3Dモデル(MR空間)を作成し、建物の平面図、立面図を重ね合わせて表示できる機能を搭載。MR空間に外壁調査結果を記録できる。従来2人で行っていた打診検査を1人で対応でき、実証実験を行った結果、全体業務を約30%削減した。



タカショーが開発したXR体験アプリ「メタバガーデン for MR グラス」の利用時のイメージ

今知りたい情報がここにある  
住生活産業のための  
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online Premium  
ハウジングトリビューン オンライン プレミアム  
https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/